

事項	いちごの越年株据え置き栽培における収量・品質		
ねらい	半促成栽培で使用した主要な一季成り性品種の越年株を据え置き栽培することで、端境期である夏秋期から翌春の収穫が可能であることが確認され、生育・収量・品質が明らかになったので参考に供する。		
指導 参考 内容	<p>1 半促成栽培に供した越年株を据え置き栽培することにより、7月以降も引き続き収穫が可能である。 その際、病虫害の発生を防止するため、6月に1株当たり2芽程度（1芽当たり4～5枚に摘葉）に整理し、ランナーを摘除する。</p> <p>2 越年株の据え置き栽培における、7月から翌6月中旬までの株当たりの商品果収量は、「さちのか」が1,100g程度で最も多く、次いで「とちおとめ」が900g、「麗紅」が700g、「女峰」が600g程度である。</p> <p>3 商品果の平均1果重は、「麗紅」では10～15g、「とちおとめ」では10～17g、「さちのか」では9～16g、「女峰」では8～15gとなり、11～2月収穫で大きくなる。</p> <p>4 商品果のBrixは、全期間を通じて「さちのか」と「とちおとめ」が10～12%とやや高い。</p>		
期待される効果	既存の作型に夏秋期（端境期）を含めた作型を組み合わせる際の基礎資料として活用できる。		
利用上の注意事項	<p>1 不受精果や種浮き果等の高温障害を軽減するために、5月から9月にかけてハウス全体を遮光する。</p> <p>2 翌春まで収穫を行うため、冬春期はハウス内最低気温5℃以上を確保できるように保温する。</p>		
担当	青森県農林総合研究センター畑作園芸試験場 栽培部	対象地域	太平洋沿岸等の夏期冷涼地帯
発表文献等	平成15～16年度 青森県農林総合研究センター畑作園芸試験場試験成績概要集 平成15年度 東北地域研究成果情報 東北農業研究 第57号		

【根拠となった主要な試験結果】

表1 据え置き株の生育 (平成15年 青森農林総研畑園試)

調査時期	品 種 名	草 丈 (cm)	葉柄長 (cm)	芽 数 (芽/株)	花(果)房の有無		
					出蕾	開花	収穫
7月3日	麗 紅	48.0	28.5	2.2	有	有	有
	とちおとめ	45.6	28.7	2.5	有	有	有
	さちのか	41.7	24.3	2.5	有	有	有
	女 峰	48.0	29.3	2.3	有	有	有
11月7日	麗 紅	34.6	18.8	4.0	無	無	有
	とちおとめ	42.0	23.5	3.7	有	無	有
	さちのか	33.3	17.6	5.2	有	無	有
	女 峰	39.6	22.2	4.7	有	無	有
12月3日	麗 紅	26.8	8.8	4.0	有	有	無
	とちおとめ	35.1	11.2	3.7	有	有	無
	さちのか	27.2	9.5	5.2	有	有	有
	女 峰	30.8	8.0	4.7	有	有	有

(注) 定植期は平成14年9月4日

表2 時期別商品果収量 (平成15~16年 青森農林総研畑園試)

品種名	半促成	商 品 果 収 量 (g/株)													合 計
		7月以降年内及び翌年6月まで													
		7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	小計	
麗 紅	354	82	26	16	22	1	0	0	77	16	45	335	127	747	1,101
とちおとめ	283	142	44	12	0	0	0	5	109	27	71	351	165	926	1,209
さちのか	347	164	20	19	16	9	56	47	145	70	262	305	53	1,166	1,513
女 峰	361	126	15	22	21	1	0	0	72	12	31	207	98	605	966

- (注) 1 半促成の収穫時期は平成15年3月15日～6月30日  
 2 6月中旬から9月中旬までハウス全体をダイオネット810SG(遮光率55%)で遮光  
 3 商品果は6g(夏秋期は3g)以上の形が整った果実とこれに準ずる6g以上の果実

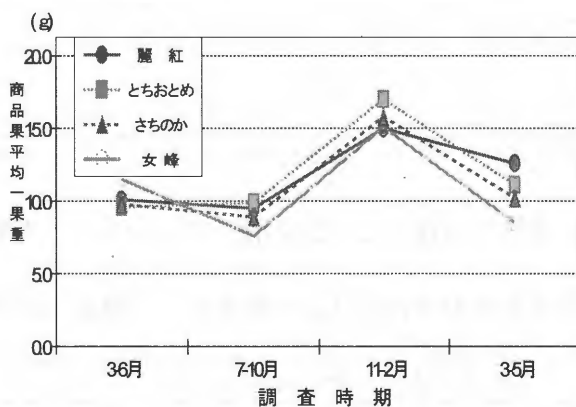


図1 時期別の平均一果重 (平成15~16年 青森農林総研畑園試)

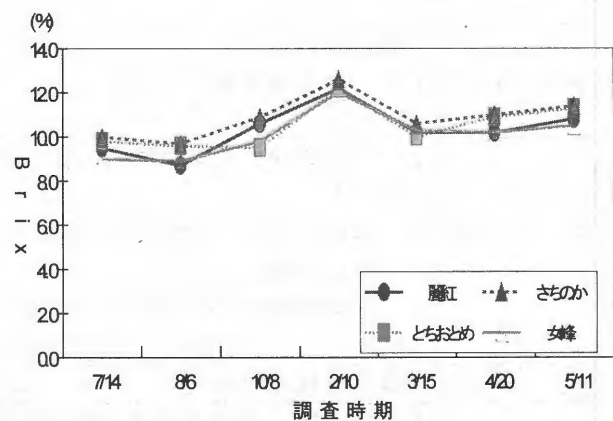


図2 時期別のBrixの推移 (平成15~16年 青森農林総研畑園試)